様式3

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立鞍手竜徳高等学校

学校番号 94

自己評価

学校運営計画（4月）

学校運営方針	教職員が一丸となり組織的に生徒に基本的な生活習慣と学習習慣を身に付けさせ、生徒一人一人の進路実現を図るとともに、自らの志に向かって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ生徒を育成する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
本校の更なる魅力向上に向け、地域と連携した教育活動を充実し、生徒の活動を積極的に発信して、地域に根差した学校の役割を推進する。コロナ期で培われた新たな教育活動や整備されたICTを活用し、心の教育や授業改善の推進を図る。また、従来の生徒指導を見直し、時代に則した方針を定める。	1 基礎学力の定着と自学自習力の習得	ICTを活用した興味・関心がもてる“わかる授業”を展開し、明確な目標及び評価方法を明示し実践して、基礎・基本の学習内容の定着と活力ある授業づくりを行う。	B
	2 規範意識の向上と健やかな心身の育成	全職員の共通理解のもときめ細かな生徒指導を行い、基本的生活習慣の徹底と規範意識の高揚を図る。生徒が主体的に活躍する場を設定し自信を持たせる。	
	3 進路希望実現のためのキャリア教育の充実	系統的なキャリア教育を通して生徒の進路意識を高め主体的な進路実現を支援する。各系列の実習等を通して社会に通用する資格取得を支援する。	
	4 人権教育の推進及び人権に関する意識・態度・行動力の育成	全ての教育活動を通して人権意識を高め、人権が尊重され一人一人が大切にされることが実感できる学校づくりを推進する。	
	5 地域から信頼される学校づくりの推進	地域に根差し、地域に開かれ信頼される学校を実現するために、学校の様々な情報を保護者のみならず、地域社会に向けて積極的に広報する。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
学務部	教務課	基礎学力の定着と学ぶ力の育成	定期考査やキャリアスタディに向けた学習を、主体的・計画的に取り組ませる。	B	B	B	授業規律を確立し、落ち着いた環境で授業が実施される。また、定期考査への意識を高く持たせ、欠点保有者、欠点科目をできるだけ減らす。
			自ら問題意識をもち、大きく変化する社会への対応、課題解決に向けて努力する生徒を育てる。	B			
		学習意欲を向上させるためのわかる授業の実施	解決までの指導助言を適切に行うことで、解決した時の喜びを味合わせる。	B	A		ICTを利用した視覚的聴覚的な教材の活用により授業を活性化させ、興味・関心を持たせる「わかる授業」を推進することで、生徒に成功体験を積ませていく。
			ICTを活用して、生徒に興味・関心を抱かせ、「わかる授業」を実践する。	A			
	情報管理課	ICT活用研修の推進による、教員の授業力向上、生徒の基礎学力向上	研究授業におけるICT機器の活用を推進し、ICTの多様な活用方法を全教職員で共有する。	B	A	A	ICT機器の使い方や授業における活用方法を研修し、更に多くの場面でICT機器が活用されるようになった。今後とも、ICTに不慣れな教員には、ICT支援を通して、きめ細やかな支援を行うように努めていく必要がある。
			研修庶務課等と連携して、主体的・対話的で深い学びとICTの活用を関連させた研修を3回以上実施する。	A			
		ICT化の推進による、教員の各種業務の負担軽減	統合型校務支援システムの運用を円滑に行い、便利な機能を活用することで、効率的に業務を行う。	A	A		教務課を中心に、業務のICT化や統合型校務支援システムの活用が進み、負担が減っていったので、今後は、更に多くの分掌等に波及するように努めていく必要がある。
			各種業務のICT化を推進し、様々な事務処理の負担を軽減する。	A			
生徒部	生徒指導課	基本的生活習慣の確立	遅刻者数の減少及び非行の未然防止を目的とした指導を全職員共通理解のもと、きめ細かく行う。	B	B	B	生徒の自発的な取組や規範意識を更に向上させるため、全職員が共通意識のもと連携を図れる指導体制を作る。
			学年主任、教務部長と連携を図り、組織的に指導を行う。	A			
		規範意識の向上と健やかな心身の育成	ルールやマナー、集団生活に関する指導を充実させ、自他を思いやる豊かな人間性を育む。	A	A		生徒・保護者と連携し大幅な校則の見直しを行った。結果、より生徒の主体性・計画性を育むことに繋がったと感じる。今後も必要に応じて校則の見直し等を行っていく。
			生徒等の意見も参考にしつつ、時代に則した生徒指導や校則の見直しを行い、更なる規範意識の向上を図る。	A			
	保健環境課	生徒の健康管理及び安全管理の推進	定期健康診断の実施及び事後措置、CPR(心肺蘇生法)研修の実施を行う。	A	A	B	CPR(心肺蘇生法)研修を隔年で行い、実施時期を十分考慮した上で行うこと。また、保健室利用状況を確認し、必要に応じて全体へ連絡をすること。
			生徒の日々の保健室利用状況に関する情報を学年及び担任へ提供し、体調管理などの対策をとる。	A			
		校内外における美化意識の向上	日々の学校生活や清掃活動を通して生徒に美化意識をもたせ、明るく活気があり清潔な学習環境をつくる。	B	B		掃除道具の確認・補充を行い、清掃環境を整えること。ごみの分別については、担当教師と生徒たちのおかげで、周知することができた。
			ごみの分別を生徒に周知徹底させ、ごみの減量など環境に配慮した生活を身に付けさせる。	A			
進路部	進路指導課	各学年の進路指導の充実による進路実現	クラス担任との連携を密にし、生徒の実態や社会情勢に応じた資格取得を推進し進路実現を支援する。	A	B	B	今年度、職業選択時のミスマッチが生じたという反省から、三者面談時等でのより密な情報提供と情報共有を図り、ミスマッチが生じないよう支援する。
			各学年の進路行事の目的を明確にし、生徒の進路意識の向上を図り、希望進路実現につなげる。	B			
		進路関連行事のより一層な充実	進路の手引きを活用した進路指導により、進路実現に向けた計画的な進路指導を実施する。	B	A		進路関連行事が生徒の進路意識向上と進路希望の明確化に効果的につなげられているかを再確認し、必要に応じて見直しをしていく。
			キャリア学習課と連携して進路ガイダンスの充実に努め、希望進路実現に向けた指導を行う。	A			
	キャリア学習課	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「キャリア形成」の円滑な実施と運営	3年間のキャリア教育を見据え、各学年の到達目標を明確に設定し、学習活動を系統的かつ円滑に実施する。	A	A	A	キャリア学習に関し、学年で話し合いながら、さらに効果的な全体指導となるよう学習指導案や評価方法を見直し、学習内容の充実を図るとともに、役割分担の見直しも行う。
			該当学年団と連携して「総合的な探究の時間」「キャリア形成」の充実を図る。	A			
		科目選択に向けたガイダンス機能の充実	カリキュラムガイダンスの学習内容を充実させ、進路実現における適切な科目選択を実現させる。	B	B		カリキュラムガイダンスの内容研修を新転任職員にも早期に実施し、全体としての指導力向上を推進するとともに、生徒の進路実現に向けた科目選択を実施する。
			科目選択に関する各学年職員の事前ガイダンスを行うことでスムーズな科目選択を実施する。	A			
企画部	研修庶務課	職員研修の充実と精選	時宜に応じた職員研修を行うことで教員の指導力の向上を図り、職員間の共通理解による効果的な教育活動を推進する。	A	B	A	ICT教材の授業活用をより推進するため、教員間の相互研修や外部研修を更に充実させるとともに、ICT支援員の協力によるより実践的な研修を設定する。
			本校の教育課題解決に向けて、職員が多くの知識を吸収し実践につながることができる研修を企画する。	B			
		PTA活動の活性化	PTA各委員会の業務内容を精選し、PTA活動の充実、協力体制の組織化を行う。	A	A		PTAと連携を取り、コロナ以前の活動に戻すべく臨機応変に対応した。次年度は、PTAの本格的な活動を支援するための準備を計画的に進めていく。
			他の分掌や、保護者との協力体制を図り、保護者と学校の連携による企画や取組を効果的に進める。	B			
	広報課	地域や中学生に発信する広報活動に必要なコンテンツの充実	学校HPや学校紹介ビデオ、その他刊行物の内容を学年、系列、部活動と協力しながら充実させる。	B	B	B	新CMSシステムへ移行するので、見やすく魅力的なHPの作成を行う。また、HPやインスタグラムでの情報発信をもっと積極的に行う。
			「中学生体験入学」や「進路相談事業」で学校の魅力ある取組や進路実績を地域社会に向けて発信する。	A			
		学校公式マスコット「りゅうとくん」の認知度向上	生徒と協力して「りゅうとくん」の魅力を引き出すイラストを作成し、20周年記念事業の広報活動に活用する。	C	B		「りゅうとくん」のグッズや焼き印を入れた商品は作成したが、もっとイラストに動きを付けたり着ぐるみを作ったりして認知度の向上を図る。
			イラスト入りのグッズの作成や、HP等での活用を積極的に行う。	B			
人権・同和教育部		すべての教育活動を通して生徒の人権意識を高める指導の推進	人権・同和教育授業における指導内容の共通認識を図り、効果的な人権学習指導ができるように努める。	A	A	B	今年度の人権・同和教育授業の振り返りを確実に行い、授業内容の見直しやより良い学習指導案を作成できるように進める。
			人権学習の振り返りや新入生対象の人権教育アンケートを通して、状況に応じた効果的な指導を行う。	B			
		特別支援教育推進のための啓発と組織的な支援体制構築の推進	生徒の進路実現に向けて、特別支援教育コーディネーターやカウンセラーと連携した修学支援を行う。	B	B		生徒の進路実現に向けて、情報共有を徹底し、就学支援委員会の活性化を図る。また、特別支援教育コーディネーターやカウンセラーとの連携を強化する。
			修学支援委員会等を活用して情報共有を行い、各年次や家庭、関係機関と連携して生徒を支援できる体制を構築する。	B			
第1年次		基本的生活習慣の確立	家庭との連携を密に図り、遅刻・欠席をさせない指導を行う。	B	B	B	基本的な生活習慣が身に付いていない生徒が多く、遅刻や欠席が多いので、個人面談などを密に行い、状況把握に努め、家庭との連携を徹底する必要がある。
			定期的に個人面談を行い、状況把握に努め、生徒の抱える諸問題に早期発見・解決を図る。	A			
		互いに尊重し合える人間関係の構築	相手のことを考え、他者との違いを理解するため、クラス単位やグループ活動の場を作る。	B	B		自己中心的に物事を考える生徒が多く、その都度、指導をしてきたが、浸透しきっていないのが現状である。今後も、積極的に生徒に指導を行い、意識の向上に努めていく必要がある。
			言葉遣いを気を付けるよう声掛けし、互いを思いやる心がけができる人間関係を育む。	B			
第2年次		基礎学力の定着及び向上	考査や日々の学習など、生徒が事前に準備できる学習環境を整える。	B	B	A	以前に比べ生徒は積極的に学習に取り組んでいるが、その積極性に生徒間で差が出てきている。その点について対応が必要となる。
			課題の提出や授業への取組方など、考査の学習以外の面を教員全員で指導する。	A			
		協働性の向上	集団の中の一員であることを意識させ、「ルールの中に、自由がある」ことを理解させる。	A	A		「規則を守る」ということについては概ね良好である。今後は、周囲で助け合い、お互いが高め合う集団により近付けていきたいと考えている。
			つねに周囲を思いやり、お互いが高め合う集団となるように努める。	A			
第3年次		社会人基礎力の育成	自尊感情を高め、意欲を喚起するために、前向きな声掛け及び建設的なアドバイスに努める。	B	A	A	進路決定後における著しい学校生活の乱れや落ち着きの無さを解消するための具体的方策について、関係部署と連携し、手だてを講じていく必要がある。
			話を聞く態度・姿勢に関する指導の徹底を図るとともに、自己表現ができる機会を意図的に作り出す。	A			
		希望進路の実現	家庭との連携を図りながら、具に希望進路を確認し、求人状況を遅滞なく発信する。	B	B		進路選択～内定承諾までの一連の取組に関する規定や方針の周知徹底とその理解を得るための具体的な働きかけを明確に確認する必要がある。
			受験先の試験内容を過去の受験報告書から調べ、受験先に応じた試験対策を講じる。	A			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・地域等に対する本校の更なる魅力向上のために地域に密着した教育活動を充実させ、諸活動における生徒の活き活きとした姿の発信等を通して地域に根差した学校としての役割を推進させ、本校の発展に努める。
・整備されたICTを効果的に活用した授業改善を推進し、わかる授業、活気のある授業づくりを推進する。また、それに資する職員研修を充実する。
・学校行事等の精選及び充実、並びに清掃活動等の奉仕活動の推進により、心の教育を充実する。
・生徒指導を見直しを受け、変更された生徒指導方針の定着を図る。

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
A	A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	○考査前に小テスト等の実施や習熟度に応じた指導が実施されているが、全科目の指導及び事後指導を強化して欲しい。 ○定期考査3日前から各クラスでの勉強会を実施し、実態を踏まえて個別に放課後指導を今後も継続して欲しい。
A	○生徒の出欠や成績、生徒情報等を一元的に管理できる統合型校務支援システムについて理解した。 ○ICTを活用した授業の割合を増やし、生徒の関心を惹きつける授業づくりのため、根気よく指導して欲しい。
A	○校則の見直し、求められる資質・能力の育成を行っているのは、時代の変化に沿っており良かったと思う。 ○従来の生徒指導を見直し、主体性や自主性、判断力や表現力などを培うという方向ですすんでおり、評価できる。
A	○学校での美化活動は、人間形成に資するとともに自己肯定感を培い、規範意識を学ばせるための重要な実体験を伴う教育活動である。清掃コンクールなど、互いに競い学び合う場を設けることも効果的であると考える。
A	○多くの求人があり、今年度は宮若市役所への就職も決まった。生徒や保護者が納得のいく進路選択ができるよう、系列に準じたインターンシップの実施や地元企業等による進路学習を十分行い、地域で活躍できるよう指導を行って欲しい。
A	○総合学科高校として、各系列での学習やキャリア学習を積み重ね、自己実現に向けた教育活動を進めているとのこと、総合学科発表会は本校のキャリア教育の集大成であり、成果発表も年々レベルが上がっているようだが更なる発展を期待したい。
A	○学校でのICT環境の充実を効果的な指導へ活かすための研修を充実させているとのこと、若手教員の最先端の手法とベテラン教員が培ってきた指導方法の融合を図り、生徒の関心を惹きつける授業づくりのため、研修を更に充実させて欲しい。
B	○学校キャラクターの「りゅうと君」について、認知度の向上を図り、学校行事のたびに、効果的に活用して欲しい。 ○生徒や保護者、地域社会に対して、生徒の生き生きした姿を紹介できるよう、HPの充実を図り、取り組んで欲しい。
A	○人権・同和教育については、通信機器の適切な利用についての人権意識の向上に向けた指導等、高校での人権教育は、社会に出る前の大事な教育の期間であり、生涯の学びにつながるよう積極的な指導をお願いしたい。
A	○充実した高校生活が実現できるよう、生徒一人ひとりにきめ細かな指導はもちろん、保護者や出身中学校等との連携も行っているとの説明を受けた。進学したての1年次については、保護者（家庭）への声掛けと連携が非常に大切であると感じている。
A	○朝読書は、生徒の情操面での育成や読書に対する親近感を高める上で有効であることから、入学時から2年間継続しているとのこと、図書館からの貸出など興味のある分野を自由に選択し活字に触れ合う機会を意識的に作っており評価できる。
A	○進路実現に向けた面接指導等は充実していて有難かった。 ○進路決定後も、考査や総合学科発表会、キャリアスタディ等の活動を通じて、生徒の学習意欲が更に高まるよう工夫し指導されていることがわかった。

評価項目以外のものに関する意見

今年度は、新型コロナウイルス感染症が五類に変更となり、各種行事が平常に近い形で開催された。そのような中、創立20周年記念式典はじめ、体育祭や竜徳祭、総合学科発表会が開催され来賓として出席したが、節目の年にふさわしく、生徒のいきいきと活動する姿や成長した姿に感心した。今後、本校の更なる発展と地域との連携の充実を期待したい。